



H26年度採択 都市部コミュニティを含めた自助による 防災力と復興力を高めるためのLODE手法の開発

倉原宗孝
岩手県立大学総合政策学部



LODEの目指す方向、つなぎたい・育てたい人々

●要援護者

LODEは、従来の手法より、要援護者対応をより意識した手法を目指す。

●一般住民

単に“守るべき対象”としてだけではなく、“守り手の候補”として発見、育成を目指す。

●コミュニティリーダー

上意下達型のリーダーではなく、要援護者や新しい担い手達に“優しい目線”を持つことができるリーダーの発見、育成を目指す。

●社協職員や要援護者を見守り続けている地域の仕組み・人材

地域におけるLODE普及の担い手・コーディネーターとして育成を目指す

Little people

Old people

Disabled people's

Evacuation

小さき者も
老いたる者も
障害を抱える者も
みんなで避難しよう

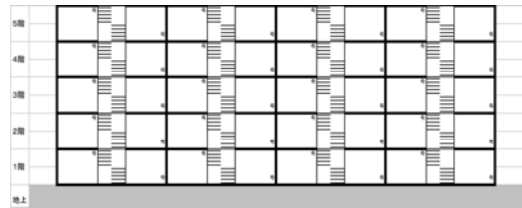
みんなで生きて行ける社
会をつくろう



対象とするコミュニティ

- **様々なタイプのコミュニティを対象**
戸建地区、戸建・中高層混在地区、中高層地区、外国人の多い地区、他
- **様々な規模のコミュニティを対象**
学区や連合町内会レベルだけでなく、単位町内会やマンション住棟単位でも取り組みやすい手法
- **都市型コミュニティにも強い手法**
従来のDIGでは対象とすることが難しかった中高層住宅が多い地区でも取り組みやすい手法
- **主体的に自助力強化に取り組むコミュニティを支援**
従来の上意下達型ではなく、住民の主体意識や要援護者への意識を高めていくための手法

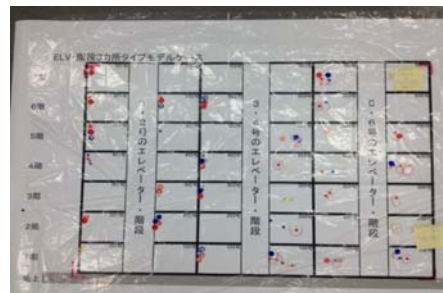
マンションや団地簡易立面図を利用した図上訓練WSが可能



LODE研究開発目標

- (1) コミュニティタイプ別標準的実施手法の開発
- (2) 実施・普及人材の育成方法と、その検証
- (3) LODE手法として体系化を図る
- (4) 自助・互助力の向上、或いはその向上に有効と思われる指標等の開発
- (5) 個人情報収集と管理方法に関する研究

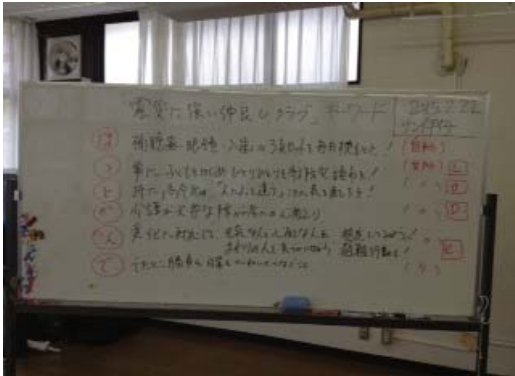
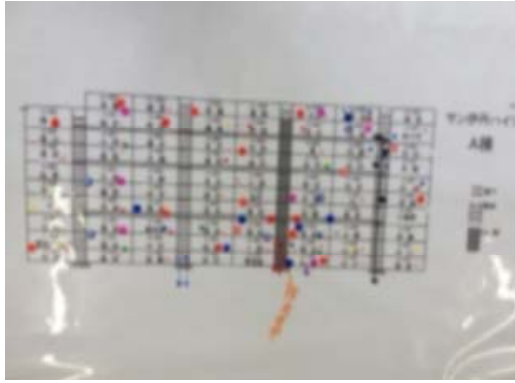
5年後LODEのイメージ



“5年後のコミュニティ”
のシミュレーション作業



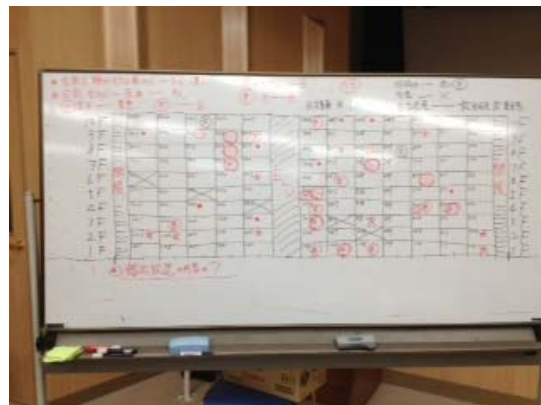
26年度プレ試行調査（伊丹市：マンション自治会）



- マンションでの立面活用LODE
- 地元社協メンバーの地域コーディネート機能が有効に働く
- 自治会長の自主的な企画、会長・住民・関係者共に意欲喚起。



26年度プレ試行調査（伊丹市：連合町内会域）



- マンション立面図利用によるLODE
- 地域での活動経験がある地元社協職員の地域コーディネートが活きる。
- 参加者のうち中心メンバーの防災・福祉、LODEに対する興味向上。自立的活動への意欲喚起。



26年度プレ試行調査（伊丹市子ども団体：学校区）



- 子供を中心に100名ほどの参加。小学校体育館で行う。
- 地域での活動経験ある地元社協職員の地域コーディネーターが活躍
- 地元子育て団体による積極的な企画・協力。今後への意欲も。



26年度プレ試行調査（京都府精華町：全町域）



- 全町エリアを対象としたため
図面作業ではなく講座式の
「プレLODE」の実施
- 参加者からの感動の感想



実践を通じたWSコンテンツの拡充・整理 (平成25年10月～26年の8回から)

【想いや情報の提供】

- 体験談
- 災害時、弱者の存在
- 各問いかけとポストイット記入（自助・大切な物など）
- 避難所の看板
- 伝言ダイヤル

【図上作業】

- 自分や近隣住民の図上記入
- 公衆電話の設置場所
- 各種住環境要素記入
- 図上での避難
- 模擬被災・避難体験
- 災害時仮想質問

【創作活動】

- 小物入れ作り
- 新聞スリッパ
- ほのぼのあかり

【その他各メニュー】

- 紙芝居による防災、活動紹介
- 防災グッズ
- 食の共有
- 手話の紹介・体験
- 屋外の観察
- 一言感想
- 記念撮影



27年度神戸市大規模マンションにおける標準的手法の検証

【LODEのL.O.D.（脆弱性）を評価してみる】

いざというとき支援が必要な人について情報共有

Little：乳幼児や子供 Old：高齢者

Disabled：特別の配慮が必要な人たち その他（ペット等）

報告会・反省会
次回の企画・計画

【LODEのEを体験してみよう】

具体的な課題・状況における避難体験。要援護者の避難行動や
周辺地域との協力や対応課題などを考える

報告会・反省会
次回の企画・計画

【5年後LODEにトライしてみよう】

第一回目のLODEマップをもとに“5年後を想定した
LODEマップの作成
“潜在する脆弱性”と“今後に向けた内在力”の発見・認識

報告会・反省会
次回の企画・計画



27年度新モデル地区での推進（神戸市灘区マンション）



- ・マンションの棟別に要援護者情報などを出し合う
- ・立面住戸配置図に要援護者のタイプ別に色を決めてシールを貼る



今回初めての試みとなる、
壁面を活用したワークショップ



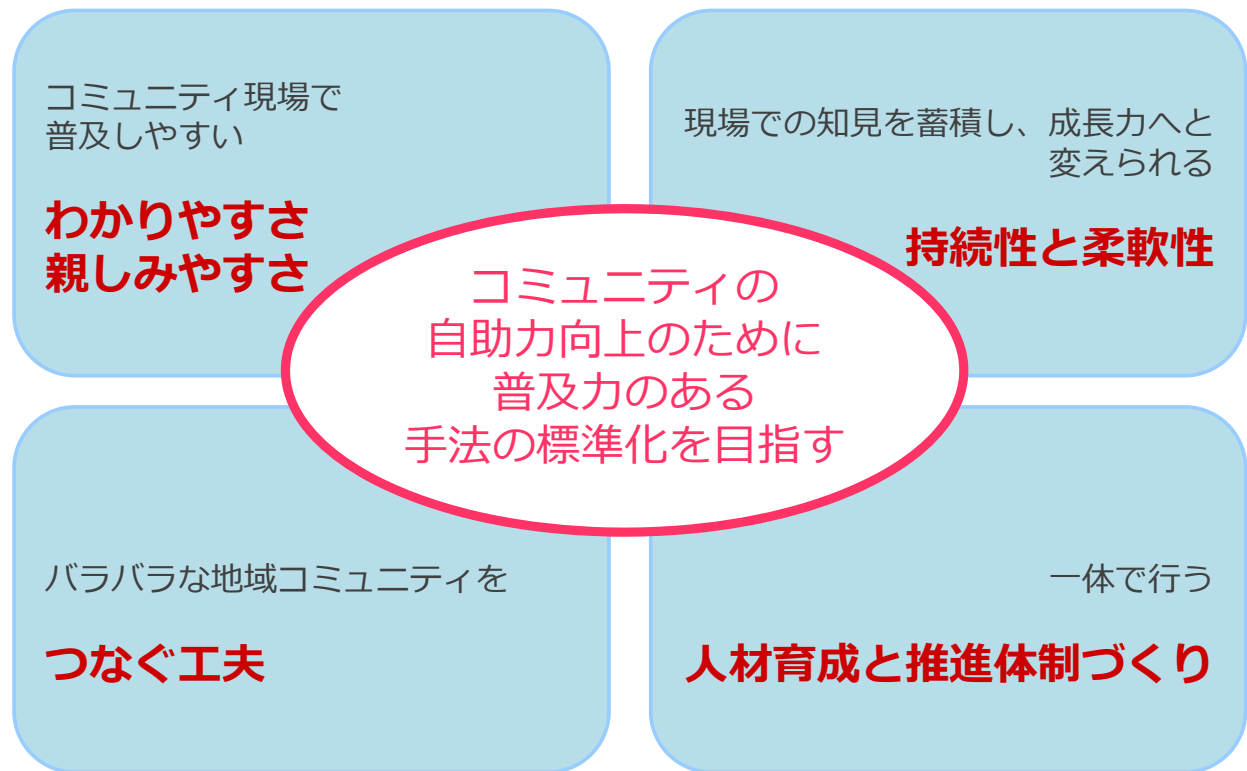
27年度新モデル地区での推進（神戸市灘区マンション）



- ・子どもLODEも実施
- ・参加者の層が徐々に広がる



手法の標準化に向けた研究開発のポイント整理



手法の標準化に向けた調査・検討

(異なるタイプの各種地域コミュニティをいかに繋げられるか)

単位町内会やマンション自治会

⇒元気な中高年層中心

子ども会や学校

⇒町内会とのつながりは薄い

PTA (子どもの親)

⇒町内会への参加度は低い

在宅の要介護・要支援高齢者

⇒大半は介護事業者とのつながり

在宅障がい者

⇒支援学校や施設中心
のネットワーク



手法の標準化に向けた調査・検討 (異なるタイプの各種地域コミュニティをいかに繋げられるか)

【LODEの体系化案】			
LODEのタイプ	対象・エリア	狙い	ポイント
予備LODE (認識を促すLODE)	自治体全域、学校区、連合町内会	・基本LODEに取り組む必要性、重要性をより多くの住民にアピールする	・図面WSは地域地図を、中高層建物図面はモデル図面を使用
基本LODE (今LODE及び、5年後LODE)	単位町内会・自治会、及び班、マンションの組合等	・住民一人一人の自助力を上げる。 ・共助意識醸成と要援護者情報共有 ・将来の守り手育成意識の醸成	・今LODEによる要援護者情報マップ化 ・5年後LODEによる潜在人材掘起こし
補完LODE	子どもLODE	・子ども個人個人の自助力をあげる ・親(子育て世代)の関心を惹き付ける	・マップ作り(自宅、避難所、公衆電話、危険な場所、友人宅)とまち歩き ・高齢者等への理解促進のための工作 ・親への手紙・報告
	井戸端LODE	・身近な自治会エリアや班エリア(広いエリアの場合も可能)	・和小物創作WSや会食会 ・気になるお年寄り情報井戸端会議とマップ化
	障がい者LODE	・障がい者家族同士のネットワーク構築 ・施設避難所設置能力養成 ・一般住民への周知	・万一のとき我が子が困ること、足りないもの、助けて欲しいこと ・万一のとき頼りたい人や場所 ・互助マッチング(広域と近所)

手法の標準化に向けた調査・検討 (人材育成と推進体制づくりのステージづくりの実践と観察)

